

六郷高1年生56人 ロボット操作体験 介護に理解深める



移動を手助けするロボット。生徒が使用を体験した

県内唯一の福祉がある美郷町の六郷高校で、介護現場で使われているロボットについて学ぶ体験学習会が開かれ、1年生56人が先端技術や介護職への理解を深めた。六郷高の生徒は2年から福祉科と普通科に分かれる。学習会は学校と県長寿社会課が、介護職の魅力を知ってもらうと昨年度に続く開催で17日に行った。

移動を支えるロボットのほか、電動車いす、腰の負担を軽減する筋肉スーツ、ベッドの下に差し込み心拍数や睡眠の深さなどを管理するセンサーマットの4種類が登場。生徒は班ごとに各ブースを回り、福祉職員を扱う事業者や県の担当者から説明を受けながら操作を体験した。六郷高の高橋優香さんは「介護する側とされる側の負担を軽減する機械がたくさんあってすごい。介護福祉になつたら、ロボットを使って効率良くお世話をしたい」と話した。

学習会では、介護老人保健施設などを運営するあけぼの会（大仙市）の町田大介さん（45）が講演。ロボット活用の事例を紹介した上で、「素晴らしい機械があっても使うのは人なので、変化していく時代に適応できる前向きな人材が必要としている。介護は自分もみんなも幸せにできる格好いい仕事だ」と語った。

（佐藤将弥）